

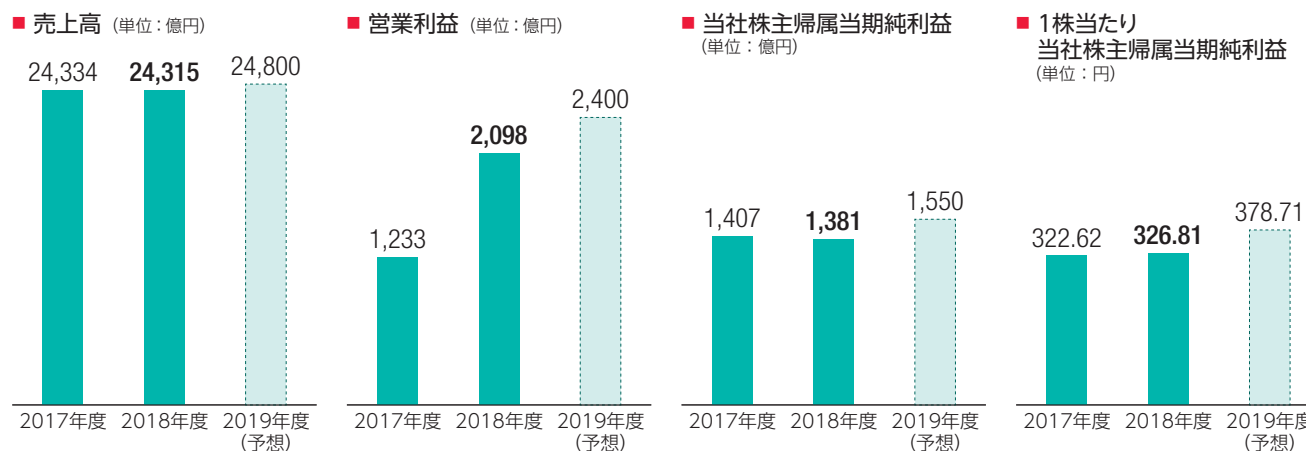
FUJIFILM NEWS

Vol.100
株 主 通 信

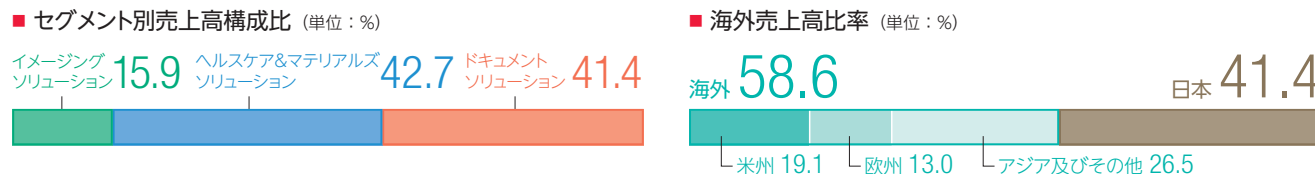
2018年度 決算ハイライト

2018年度決算のポイント

営業利益	過去最高益となる2,098億円を達成 計画2,000億円を大きく上回り、前年同期比で70.1%増益
事業別業績 (前年同期比)	・メディカルシステム事業、バイオCDMO事業の増収に伴いヘルスケアが大幅増益 (+67%) ・ドキュメント事業が、収益性の改善や構造改革効果により大幅増益 (11.5倍)



※2017年度の営業利益については、米国会計基準の変更に伴い、期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示区分の変更を遡及適用しています。



詳細な財務情報は、当社ウェブサイト「株主・投資家情報」をご覧ください。

アドレスはこちら > <http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

株主の皆様へ

過去最高益を更新 「自ら変化を作り出す」企業として進化を続ける

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年度は、ヘルスケア領域をはじめとする各事業における収益性の改善やドキュメント事業の構造改革の効果により、営業利益が前年同期比70.1%増、過去最高益の2,098億円となりました。中期経営計画「VISION2019」の最終年度となる今年度は、ヘルスケア領域における収益力の向上などを元に、営業利益目標を中期経営計画で発表した数字から100億円上乗せした2,400億円とし、2年連続で過去最高益を更新することを目指して、自らをさらに「進化」させていきます。

当社はこれまでの歩みにおいても、絶えず「進化」を続けてきました。企業が進化していく過程には三つの段階があると考えます。まず良い企業とは、自らを取り巻く事業環境の変化に対して、素早く、適切に対応できる企業です。当社は2000年代に写真フィルム需要の激減という危機に直面した際に、その大きな変化に迅速に対応し、事業構造を果敢に転換してきました。次に環境変化に対応するだけに留まらず、変化を予測して先手を打つことができるのがさらに良い企業と言えます。当社はスマートフォンの急速な普及という変化を早い段階に捉え、他社に先駆けてコンパクトデジタルカメラのラインアップを

大胆に縮小し、いち早くハイエンドミラーレスデジタルカメラに注力して市場で存在感を高めています。また、当社が写真フィルムの製造で培ってきた高度な生産・品質管理技術を用いて、M&Aなども活用しながら、2011年にはバイオ医薬品の開発・製造受託事業に参入しました。当事業はいまやヘルスケア領域の成長を牽引する事業の一つとなっています。この成長をさらに加速するため、今年3月には米国バイオ医薬品大手バイオジェン社の製造子会社の買収を発表しました。今後ますます需要の高まりが期待されているバイオ医薬品の開発・製造受託事業において、積極的な生産能力の増強とともに、当社グループ全体での独自技術の開発加速など、シナジーを最大化させていきます。

しかしながら、企業の「進化」はそれでもまだ十分ではありません。最も良いのは、先進的な技術で新しい価値を持つ製品やサービスを創出し、自ら社会の変化を作り出すことができる企業です。当社は、日本初の再生医療製品を上市した、グループ会社のジャパン・ティッシュ・エンジニアリングと2010年に資本提携し、再生医療事業に本格参入。これまで有効な治療法のなかった疾患の究極の治療法の確立を目指し、独自技術の活用や積極的なM&A・事業提携などを通じて、再生医療の産業化



代表取締役会長・CEO

代表取締役社長・COO

古森重隆 助野健児

をリードしています。今後も世界中の人々の健康や生活の質の向上のために、「自ら変化を作り出す」企業として進化し続けていきます。

これら事業成長に向けた取り組みを加速するとともに、株主の皆様への利益還元をこれからも積極的に行っていきます。2018年度の配当金は、前年同期比5円増配の1株当たり80円（うち期末配当40円）とさせていただきます。2019年度は、10期連続増配となる15円増配の1株当たり95円を予定しております。また、昨年度に総額1,000億円を上限とした自己株式取得を完了し、今年度は500億円の自己株式取得を予定しております。

新しい「令和」の時代においても、社会に価値を提供し続ける企業として、今後も当社は力強く成長・発展していきます。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年6月

富士フイルムグループトピックス

バイオCDMO事業の成長を加速 米バイオ医薬品大手バイオジェン社の製造子会社を買収

TOPICS 1

当社は副作用が少なく高い効能が期待できることから、需要が高まっているバイオ医薬品の開発・製造受託(CDMO*)事業をさらに拡大するため、米バイオ医薬品大手バイオジェン社の製造子会社であるバイオジェン デンマーク マニュファクチャリング社を買収します。

同社は高度なバイオテクノロジーや生産ノウハウをもとに、高品質・高信頼性のバイオ医薬品をグローバルに提供してきた

経験と実績があり現在、大量生産に対応できる大型の設備によって、抗体医薬品などのバイオ医薬品を生産しています。今回の買収で、当社グループが現在米国や英国の拠点で保有している、多品種生産に適した少量～中量中心の生産設備に、同社の大量生産設備を加えることで、生産能力を大幅に増強するとともに、少量から大量まで幅広いニーズに応え、さらなるビジネス拡大を図ります。

■ バイオCDMO事業のグローバル拠点

FUJIFILM
Diosynth Biotechnologies,
英国、ピリンガム市
2011年～



バイオCDMOの
新たな拠点を獲得

Biogen Denmark
Manufacturing,
デンマーク、ヒルロッド市
2019年～

富士フイルム本社
日本、東京

FUJIFILM
Diosynth Biotechnologies,
米国、テキサス州
2014年～

FUJIFILM
Diosynth Biotechnologies,
米国、ノースカロライナ州
2011年～

協業
メルク社
プリニー工場
アイルランド、コーク州

半導体材料事業をさらに拡大 米国拠点に約100億円を投資

TOPICS 2

AI・IoTや次世代通信規格「5G」の普及、自動運転技術の進化などにより、半導体のさらなる需要拡大と高性能化が見込まれており、より高性能・高品質な半導体材料を安定的に供給することが求められています。当社はこれに対応するため、米国の半導体材料の開発・生産・

販売拠点であるFUJIFILM Electronic Materials U.S.A., Inc.のアリゾナ州及びロードアイランド州の工場における、最先端半導体材料の開発・生産・品質保証などの設備を増強します。設備投資の総額は2018年12月より3年間で約100億円を計画しています。

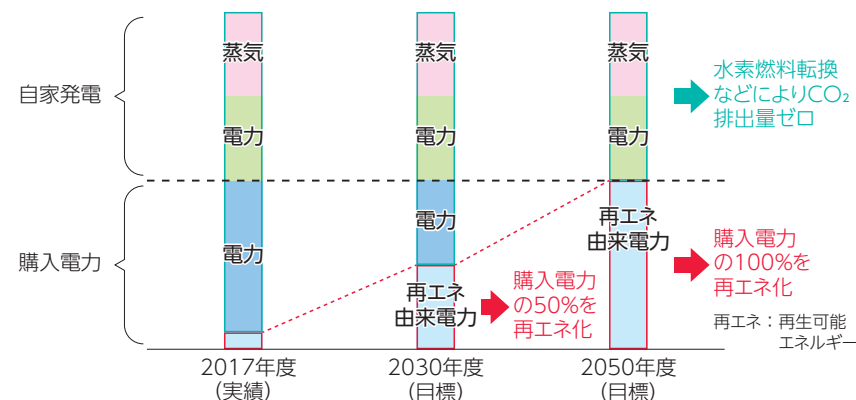
再生可能エネルギーの導入目標を設定 脱炭素社会の実現に貢献

TOPICS 3

当社は2030年度をターゲットとした再生可能エネルギー導入目標を設定し、購入電力の50%を、太陽光・風力・水力・バイオマス・地熱などの再生可能エネルギー由来の電力へ転換します。また、2050年度にはすべての購入電力

を再生可能エネルギー由来の電力に転換するとともに、自家発電システムに使用する燃料を水素燃料へ転換することなどにより、当社が使用するすべてのエネルギーでCO₂排出量ゼロを目指します。

■ 今後のエネルギー構成比推移



(*CDMO: Contract Development & Manufacturing Organizationの略で、生産プロセスの開発受託及び製造受託を行う会社・組織を指す)

セグメント別概況

イメージング ソリューション

<事業>

フォトイメージング、
電子映像・光学デバイス



[FUJIFILM X-T3]



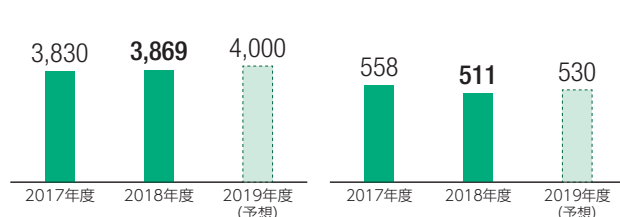
[Instax SQUARE SQ20]

■ 売上高 (単位: 億円)

3,869億円
(前年同期比1.0%増)

■ 営業利益 (単位: 億円)

511億円
(前年同期比8.4%減)



▶業績概要

- ・フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”やチェキ用フィルムなどインスタントフォトシステムの販売が好調に推移。
- ・電子映像では、ミラーレスデジタルカメラの「FUJIFILM X-T3」や「FUJIFILM X-T30」、大型センサー搭載の「FUJIFILM GFX 50R」の売上が好調に推移。
- ・光学デバイスでは車載用など各種産業用レンズの販売が堅調に推移。

▶今後の取り組み

- ・フォトイメージングは、インスタントカメラ“チェキ”やチェキ用フィルムの拡販、写真クラウドサービス「FUJIFILM PhotoBank」などの高付加価値サービスの提供により、売上・利益を維持・拡大。
- ・光学・電子映像は、ミラーレスデジタルカメラや交換レンズのラインアップを強化。4K・8K対応の放送カメラ用レンズやプロジェクターなど新規分野に注力。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション

<事業(ヘルスケア)>

医薬品・バイオCDMO、再生医療、
メディカルシステム、ライフサイエンス

医用画像
情報システム
[SYNAPSE]



<事業(高機能材料等)>

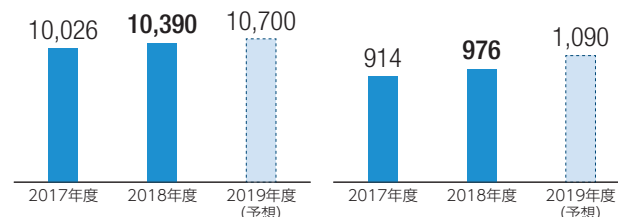
ディスプレイ材料、産業機材、電子材料、
ファインケミカル、記録メディア、グラフィックシステム・インクジェット

■ 売上高 (単位: 億円)

1兆390億円
(前年同期比3.6%増)

■ 営業利益 (単位: 億円)

976億円
(前年同期比6.8%増)



▶業績概要

- ・メディカルシステムは、X線画像診断や内視鏡などすべての分野で販売が好調に推移。
- ・バイオCDMOは、設備増強によりバイオ医薬品のプロセス開発・製造受託が増加。
- ・再生医療は、連結子会社化した培地のリーディングカンパニー FUJIFILM Irvine Scientific が寄与し、売上が大幅に増加。
- ・電子材料はフォトリソ周辺材料などの先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加。

▶今後の取り組み

- ・メディカルシステムは、医療ITや内視鏡などの各分野で売上を拡大。医療画像診断支援に活用できるAI（人工知能）技術の開発を進める。
- ・バイオCDMOは、設備投資・技術開発により生産能力を拡大。
- ・再生医療は、培地の売上を拡大。
- ・電子材料は、先端フォトリソ周辺材料などの拡販、及び製品ラインアップを拡大。

ドキュメント ソリューション

<事業>

オフィスプロダクト&プリンター、
プロダクションサービス、
ソリューション&サービス



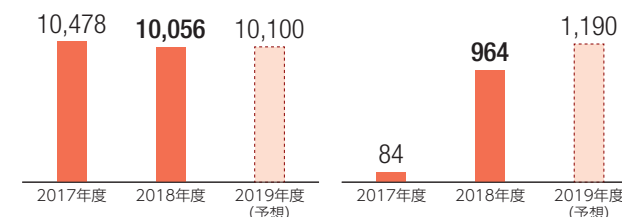
[Iridesse™ Production Press]

■ 売上高 (単位: 億円)

1兆56億円
(前年同期比4.0%減)

■ 営業利益 (単位: 億円)

964億円
(前年同期比11.5倍)



▶業績概要

- ・オフィスプロダクトでは、セキュリティ機能を強化したカラー複合機の新製品「ApeosPort-VII C」シリーズの販売が堅調に推移。オフィスプリンターでは、低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小。
- ・プロダクションサービスは、高速・高画質のカラー・オンデマンド・パブリッシング機「Iridesse™ Production Press」の販売が好調に推移。
- ・ソリューション&サービスは、BPO (Business Process Outsourcing) 契約の新規獲得や業種・業務別ソリューションの販売などが堅調に推移。

▶今後の取り組み

- ・価値提供戦略「Smart Work Innovation」のもと、独自のAI技術とIoT・IoH (Internet of Human) 技術を活用した働き方改革を支援する新サービスの提供により事業成長を加速。
- ・RPA (Robotic Process Automation) を活用した生産性の向上や、構造改革を実行することにより収益・生産性を改善。

※2017年度の営業利益については、米国会計基準の変更に伴い、期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示区分の変更を遡及適用しています。

新製品NEWS

Imaging Solutions

ミラーレスデジタルカメラ [FUJIFILM GFX100]新発売

世界最高*1億2百万画素のラージフォーマットセンサーや独自の色再現技術などにより、世界最高峰の写真画質を実現する「GFX シリーズ」のフラッグシップモデル。ボディ内手ブレ補正機構や4K画質での動画撮影機能などを搭載。「二度と戻らない貴重な瞬間を後世に残す」という写真本来の大切な使命を果たします。



※民生用ミラーレスデジタルカメラにおいて。2019年5月23日時点。当社調べ。

Healthcare & Material Solutions

一包化監査支援システム [PROOFIT 1D]新発売

一包化*1された薬剤の名称と数量に間違いがないかを、独自の画像認識技術により自動で判定し、薬剤師の監査業務*2をサポートするシステム。薬剤の飲み忘れや飲み間違いを防ぐ一包化のニーズが高まる中、薬剤師の業務負担の軽減や監査の正確性向上に貢献します。



※1 複数の錠剤やカプセル剤を、朝食後など服用タイミングごとに一回分ずつ、専用の分包機で包に入れて調剤すること。

※2 薬剤師が薬剤を渡す際に、調剤された薬剤の種類と数を確認し、正確性の担保と安全性の確保を行う業務。

Imaging Solutions

写真クラウドサービス [FUJIFILM PhotoBank(フォトバンク)] サービス開始

長年撮りためた大量の写真をスッキリ整理できる写真クラウドサービス。デジタル写真に加え、アルバムや写真プリントなどのアナログ写真もデジタルデータに変換して一元的に管理できます。

独自のAI技術により被写体や撮影されたシーンを解析してキーワードで自動的にタグ付けすることで、簡単に写真の整理・検索が可能。家族や友人とも写真を共有できます。



富士フィルム フォトバンク 🔍 検索

Healthcare & Material Solutions

「アスタリフト D-UVクリア ホワイトソリューション」新発売

新開発の紫外線防御剤を新たに配合した、アスタリフトブランドで最も紫外線カット効果が高い高機能UVクリア美容液「アスタリフト D-UVクリア ホワイトソリューション」。笑う、喋るなどの顔の動きに合わせて伸縮し、肌にしっかりフィットする新処方、肌の奥まで入り込む最長波紫外線「Deep紫外線」*までしっかりカットし、美しく輝く肌を守ります。



※長波長UVA-I（波長370nm～400nm）のこと。

Deep紫外線カットとは、角層上で肌内部への紫外線到達を防ぐこと。

Document Solutions

「11000 Inkjet Press」新発売

富士フィルムグループの技術を結集して開発した、高速ロール紙カラーインクジェットプリンター。オフセット印刷に匹敵する高画質と150m/分*の高速フルカラー印刷で、幅広いビジネスニーズに応えます。



※最速時。A4換算1968ページ/分。

内視鏡の独自技術でがんの早期発見に貢献

当社は中期経営計画「VISION2019」において、ヘルスケア領域を成長領域と位置付け、重点的に経営資源を投入し、事業成長を加速させています。このシリーズでは、株主の皆様にご理解いただくため、具体的な取り組みをご紹介します。第3回は、メディカルシステム事業の中から、がんの早期発見をサポートする診断機器として世界的に需要が伸びており、当社も売上を伸ばしている「内視鏡システム」をご紹介します。

大きな社会課題である“がん”の現状

“がん”は死亡原因の第一位
早期発見・早期治療により生存率が向上

日本では、がんで亡くなる人の割合が年々増える傾向にあります。厚生労働省のデータによれば2017年は37万3,334人で、死亡原因の第1位、約3割を占めました。また、一生の間にがんにかかる確率は男性62%、女性47%^{*1}で、男女とも約2人に1人ががんと診断されています。その一方で、医学の進歩によってがんが治る患者さんは増えています。2008～2010年にがんを診断された患者さん全体の5年生存率は67.9%でしたが、罹患初期のステージ1に限れば91.9%と比べて高いものでした^{*2}。早期に発見できれば、今やがんは「治る病気」になりつつあります。

このことから国や自治体では定期検診を強化しており、その検査に用いられる内視鏡の精度向上が求められています。

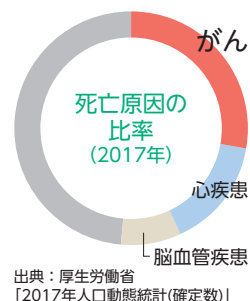
富士フィルムグループは、わずかな病変を見つけやすく、医師の正確な診断をサポートする内視鏡システムの提供を通じて、がんの早期発見に貢献しています。

^{*1}：国立がん研究センター

「がんにかかる確率～累積罹患リスク（2014年データに基づく）」より。

^{*2}：全国がんセンター協議会の生存率共同調査より。

5年生存率とは、がんを診断されてから5年後も生存している患者さんの割合。



がんの早期発見をサポートする富士フィルムグループの内視鏡システム

独自のレーザー制御技術と画像処理技術を組み合わせ、
微小な病変を早期発見、医師の正確な診断をサポート

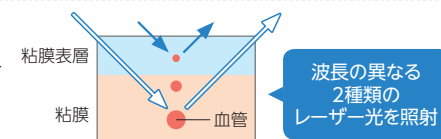
胃などを内視鏡で検査する場合、粘膜の色の違いや、粘膜表層の微細な血管の密度や太さの変化等に注目し、病変を観察します。しかし従来の白色光照明での観察では、粘膜表層の微細な変化を捉えにくいという課題がありました。富士フィルムは写真分野や医療分野で長年培ってきたレーザー光を制御する技術を活用し、白色光と短い波長の2種類のレーザー光を用いて独自の画像処理技術と組み合わせることで、がんの特徴的な粘膜表層の変化を強調した画像観察が可能な内視鏡システム「LASEREO（レザリオ）」を開発し、提供しています。

レザリオには、赤色領域のわずかな色の違いを強調する「LCI（Linked Color Imaging）」と、粘膜表面の微細な血管などを強調する「BLI（Blue Laser Imaging）」という、2つの画像観察機能があります。LCIによってがんの兆候の一つである炎症などの病変を強調し、BLIによってがんかどうかの判断や、がんの進行度の適切な診断をサポートすることができます。これらの機能が医師から高い評価を得ており、レザリオは大病院等でも多く採用されています。

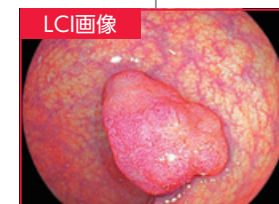
通常の白色光での観察



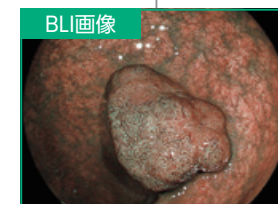
レザリオでの観察



画像処理

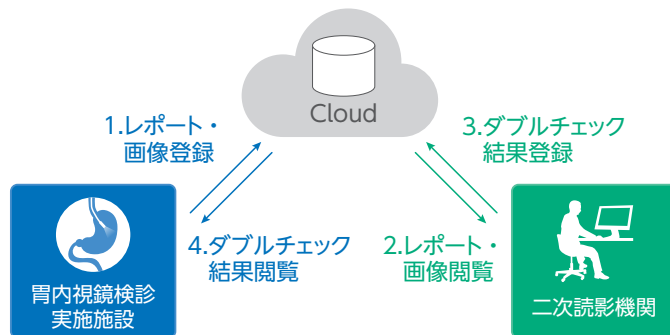


画像の赤色領域のわずかな色の違いを強調。



粘膜表層の微細な血管や、粘膜の微細な構造などを強調。

病変の見逃しを防ぐ、複数の医師による ダブルチェックの仕組み



2016年に発表された厚生労働省のがん予防のための指針では、従来胃部X線検査のみだった胃がん検診項目に胃内視鏡検査が追加されました。これを受け、胃がん検診に内視鏡検査を採用する自治体が大幅に増えています。胃内視鏡検診のガイドラインでは、クリニック等が検診したデータを、経験豊富な内視鏡専門医等がダブルチェック（二次読影）することを推奨しています。

当社は、対策型胃内視鏡検診向けダブルチェックデータ共有サービス「ASSISTA（アシスタ）Medical checkup-ES」で、高いセキュリティ環境下でクリニックと専門医の間で検査画像などの情報をやり取りできる仕組みを構築し、既に全国で10以上の医師会と契約を締結しています。

効率的なダブルチェックの仕組みを提供することで病変の早期発見に貢献するとともに、専門医が少ない地域でも離れた場所にいる専門医がダブルチェックを行えるなど、自治体に均一で高度な医療を提供する事が可能です。

Voice

感染胃炎の診断、早期胃がんの発見に非常に有用なツール

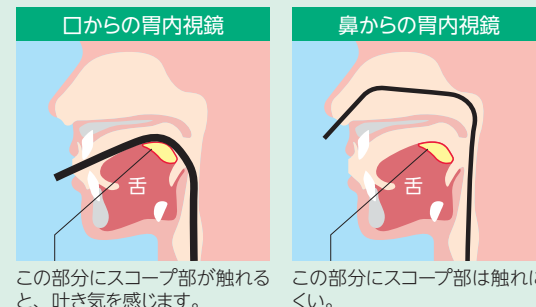
ヘリコバクター・ピロリ菌（以下、ピロリ菌）に感染すると胃炎を引き起こし、ほとんどの胃がんの原因となります。ピロリ菌感染による胃炎の状態は内視鏡で診断されますが、胃の粘膜をよく観察して、炎症の兆候である微細な色の变化等を捉えることが非常に重要です。

画像強調機能のLCIは、粘膜のわずかな色調の変化を強調して観察できるため、胃の粘膜の微細な変化がより見えやすくなり、感染胃炎の診断、早期胃がんの発見に役立っています。

検査時の負担が少ない、 鼻から挿入する「経鼻内視鏡」

鼻から挿入する「経鼻内視鏡」は、舌の根元部分に内視鏡のスコープ部が触れないため吐き気が少なく、口から挿入する内視鏡に比べて検査を受ける際の負担が少ないことが特長です。また、口がふさがらないため検査中に医師と会話ができ、気になった所をその場で確認できることや、少量のゼリー状の液体を流し込む局部麻酔で済むため、検査後30～60分程度で水を飲んだり食事をしたり、車を運転することができるというメリットもあります。

経鼻内視鏡は高精細なカメラを搭載しつつ、通常の内視鏡に比べてスコープ部を細く作る必要があるため、当社の高度な設計技術、光学技術、画像処理技術などが用いられています。



内視鏡システムの 今後の展開

当社は、わずかな病変の発見をサポートするLCI、BLIなどの画像強調機能を活かして得られた画像をAIに学習させ、検査中に病変の可能性がある箇所をリアルタイムでマーキングするなど、医師の診断を支援するAI技術の開発を強化しています。

また、IoTを活用して内視鏡の稼働状況を遠隔監視する仕組み「次世代内視鏡保守サービス」の取り組みも進めています。病院での内視鏡の稼働状況などをインターネット経由で収集して可視化することで、故障前にサービス担当者が部品の交換などを行う事ができます。これにより故障などで内視鏡が使えないダウンタイムの最小化につなげ、安定稼働を実現します。今後ワールドワイドで増加が見込まれる内視鏡検診でのさらなる活用を目指していきます。

AI、IoTを活用し
さらなる成長を
目指す

独立行政法人
国立病院機構
函館病院院長
加藤元嗣先生



投資家インフォメーション

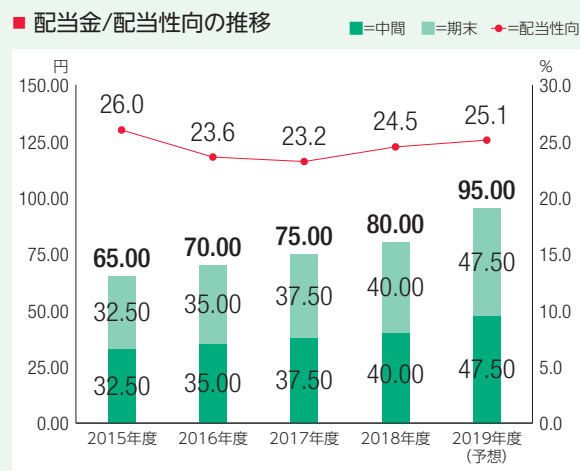
第123回定時株主総会の決議結果について

2019年6月27日開催の当社株主総会において報告及び決議された内容につきましては、当社ウェブサイト (http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/shareholders_meeting/index.html) に掲載していますので、ご参照ください。

株式データ

株価 5,034円	単元株式数 100株
必要投資金額 503,400円	証券コード 4901
PER 15.4倍	PBR 1.01%

※2019年3月29日終値をもとにしています。



会社概要 (2019年3月31日現在)

会 社 名 富士フイルムホールディングス株式会社
 設 立 1934年1月20日
 資 本 金 40,363百万円
 本 社 東京都港区赤坂9丁目7番3号
 連結従業員数 72,332名

FUJIFILM

株主優待制度を変更しました!

当社は、株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、長期的に保有していただくことを目的として株主優待制度を導入しております。このたび、3年以上の長期保有の株主様向けの優待枠を新たに追加するなど、株主優待制度を拡充いたしました。

※赤線部が前年度からの変更点です。

7月実施 (基準日:2019年3月31日)

- 単元株(100株)以上保有の株主様
当社ヘルスケア製品優待価格販売(お申し込み制)
- 1年以上、単元株(100株)以上保有の株主様
当社ヘルスケアトライアルキット及びヘルスケア製品
(計2,000~3,000円相当) プレゼント(お申し込み制)
- **新規 3年以上、300株以上500株未満保有の株主様**
当社ヘルスケア製品(4,000~5,000円相当)
プレゼント(お申し込み制)
- 3年以上、500株以上保有の株主様
当社ヘルスケア製品(9,000~10,000円相当)
プレゼント(お申し込み制)



12月実施 (基準日:2019年9月30日)

- 単元株(100株)以上保有の株主様
当社ヘルスケア製品
優待価格販売(お申し込み制)
- 1年以上、単元株(100株)以上保有の株主様
当社フォトブック等プリントサービス
利用クーポン券(1,000円分) プレゼント
- 3年以上、500株以上保有の株主様
当社フォトブック等プリントサービス
利用クーポン券(4,000円分) プレゼント



* なお、対象製品やお申し込み期限など、詳細は別途ご案内を差し上げます。

* 1年以上あるいは3年以上保有の株主様とは、基準日現在の株主名簿上で、当初取得日が1年前あるいは3年前の同日以前の方です。

* 1年以上、単元株以上保有の株主様対象の優待については、初年度(2019年度)のみ、継続保有期間が1年未満の場合でも、株主名簿上の当初取得日が2018年9月30日以前(新制度公表前)の方には進呈いたします。

* プリントサービス利用クーポン券は、1,000円分と4,000円分のいずれかのクーポン券(株主優待専用ウェブサイトからのお申し込み)に限り使用可能)をお送りします。

* 写真は製品の一例です。